

学園通信

2020.3
Vol.03



学校法人 名古屋電気学園

愛知工業大学

愛知工業大学名電高等学校

愛知工業大学名電中学校

愛知工業大学情報電子専門学校



|| 巻頭特集 || INTERVIEW

「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」に愛工大から2件が採択

オープンイノベーションで
未来を創る!

|| 巻頭特集 || INTERVIEW

「遠隔操縦付き自動運転車」
プロジェクト

「直流スマートファクトリー」
プロジェクト



「知の拠点あいち」とは

愛知県では、大学等の研究成果をモノづくり産業の技術革新（イノベーション）につなげ、既存産業の高度化や次世代産業を創出するため、愛・地球博跡地に次世代モノづくり技術の創造・発信の拠点として「知の拠点あいち」を整備しています。

Knowledge Hub Aichi

|| 巻頭特集 ||

「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」に愛工大から2件が採択 オープンイノベーションで 未来を創る！

愛知県による産学行政連携の研究開発プロジェクト

「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」に

愛工大から2件の研究テーマが採択されています。

それぞれの研究リーダーを務める塚田敏彦教授と雪田和人教授に、

その意義や今後の展開について語り合っていました。

県内企業とチームを組み、 新ビジネス創出を目指す

塚田 雪田先生は「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」事業に、どのような動機で応募されたのですか？

雪田 私の研究室では、以前から大学構内で太陽光発電や風力発電を使って「電力の自給自足」などをテーマにした実証実験を行ってきました。この事業の公募要領に愛知県の産業育成課題の一つとして「AI・IoT・ビッグデータを活用したスマートファクトリーの実現」が掲げられていたのを見て、エネルギーの側面からその課題解決に貢献できるのではないかと考え、応募しました。

塚田 私はこの事業を知った時、企業と共に研究チームを構成して取り組むことのできる点に意義を感じました。愛工大では2017年に豊田市から一人乗り電気自動車「COMS（コムス）」の貸与を受け、8名の教員が参画する学部横断型のプロジェクトとして「遠隔操縦付き自動運転車」の研究に取り組んできました。その研究成果を、ものづくりに長けた企業が製作するプラットフォームに乗せていく、という枠組、

クビットから2kmほど離れた愛工大瀬戸校地を走る車両を遠隔運転することを目指す3カ年計画となっています。

雪田 私たちは今、大学構内にプレハブを作り、その中に機器を設置して実証実験を行っています。3カ年の後半はそのプレハブごと「知の拠点あいち」内に移設し、実証実験を行う計画です。

先輩・後輩が共に 成長してくれたらうれしい

塚田 今回の取り組みをきっかけに、地域の自動車産業との連携を、より広く、より深くしていきたいと考えています。まだ構想段階ですが、愛工大が自動運転技術開発のコアセンターになることができたら、

という思いを持っています。県内企業にお話を伺うと「走行実験をどこで行うか」が課題になっているケースが多いのです。低速走行による実験ができればよいと思うので、愛工大がテストコースを整備すれば、コアセンター機能を担えるのではないかと、そうすることで愛工大にも企業にも知見を集積できるメリットが生まれるのではないかと、と考えています。

雪田 私たちが目指しているのは「愛知発、

project

先進的AI・IoT・ビッグデータ活用技術開発プロジェクト

直流スマートファクトリー

実現に向けた変換装置の開発

愛知発の直流スマートファクトリーを実現



研究リーダー 愛知工業大学 工学部 電気学科 教授 雪田 和人

事業化リーダー (株)河村電器産業(株) 小西功次

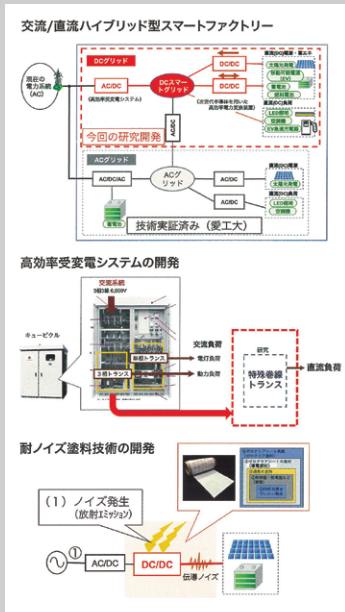
参画機関 (株)河村電器産業(株)、(株)五合・龍城工業(株)、愛知工業大学、名古屋大学、あいち産業科学技術総合センター

太陽光発電、燃料電池発電、蓄電装置などの出力エネルギーは、いずれも直流電力です。直流電力技術を利用することにより、これまでの交流電力よりも高効率な電力システムの構築が期待できます。

現在、直流電力技術に関しての社会実装は、データセンターなど一部で実施されていますが、鉄道を除く他の領域においては、基本的になされていません。これは、直流電力の変換技術、直流電力の遮断技術、故障検出技術などに関しての検討が十分に実施されていないからです。

そこで、「愛知発の直流スマートファクトリー」を実現させるため、高効率変換装置の開発と社会実装を目指すし、この研究テーマに取り組みます。

具体的には「次世代電力半導体技術によるパワーエレクトロニクスを用いた直流・直流電力変換装置」「新型変圧器を用いた交流・直流電力変換装置」を開発し、電力変換効率98%を目指します。さらに、これら変換装置の社会実装を目指す、無機塗料を用いた新しいノイズ低減方式の開発に取り組んでいます。





2020.3
INDEX

- 01 巻頭特集 || INTERVIEW
オープンイノベーションで
未来を創る!
- 03 巻頭特集 || INTERVIEW
「遠隔操縦付き自動運転車」
プロジェクト
「直流スマートファクトリー」
プロジェクト
- 04 学園だより
- 07 愛知工業大学ニュース
- 11 キャリアニュース
- 12 中学・高等学校ニュース
- 13 専門学校ニュース
- 14 クラブ活動報告
- 17 Student's Report
- 18 活躍
- 19 インフォメーション&スケジュール

「知の拠点あいち」だから
行える実験がある

雪田 施設・設備面のメリットも大きいと感じています。「知の拠点あいち」の新エネルギー実証研究エリアには、太陽光発電システムが設置されています。大学に設置されているものよりも出力が大きいため、これまで行うことができなかった実験も可能になります。

塚田 私たちは「知の拠点あいち」内の実験室に今、遠隔運転のコクピットを組み上げています。2020年度はそのコクピットと「知の拠点あいち」内の周回路を使って遠隔運転の実験を行います。そしてこの事業の最終年となる2021年度中に、コ

の直流スマートファクトリー」の実現です。現在開発に取り組んでいる変換装置やシステムが社会実装されると、環境負荷を低減する効果に加え、停電時に太陽光発電をより有効に活用できるため、災害に対してレジリエント（しなやか）な工場づくりへの貢献も期待できます。

塚田 学生たちにとっては、企業の方々と共に研究に取り組む経験から得るものも大きいでしょうね。

雪田 プレゼン資料のまとめ方一つにしても、メーカーの方たちから指摘を受けて学べることはあるでしょう。一方で、自身が開発に携わった技術が実際に製品となって社会で使われることは、モチベーションにつながると思います。また、参画企業には愛工大の卒業生がいて、彼らも指導に来てくれます。先輩・後輩がこのプロジェクトを通じて、共に成長してくれたらうれいすね。

塚田 採択された2件のプロジェクトは、学内からの期待も大きいと感じています。

雪田 工学系の私立大学で採択されたのは本学だけです。愛工大の名に恥ずかしくない成果を出していかなければと、身が引き締まる思いで取り組んでいます。

塚田 お互いに成功できるように、がんばっていきましょう。



研究リーダー | 愛知工業大学 情報科学部 情報科学科 教授 塚田 敏彦
 事業化リーダー | (株)マックスシステムズ 吉田正博、イービー愛知(株) 中西良介、(株)オリエンタルコンサルタンツ 城所貴之
 参画機関 | (株)マックスシステムズ、イービー愛知(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、愛知工業大学、愛知県立大学



project

近未来自動車技術開発プロジェクト
ヒトに優しい遠隔運転要素技術の開発とシステム化
 完全自動運転実現への架け橋として

世の中では自動運転技術の開発が活発に行われており、近い将来、いくつかの場面で自動運転の実現が期待されています。しかし、それは幹線道路など、自動運転に適したインフラを整備することが可能な環境に限られ、生活道路や山間地の道路、さらには道交法に反した走行が必要となる私道など、あらゆる環境において完全自動運転を実現することは、大変困難です。一つの解決策として、非常時に遠隔運転により、立往生を切り抜ける方策が考えられます。

遠隔運転を実現するためには「遠隔運転者が安全に運転するための車両周辺情報の提供」と「運転操作を確実に遠隔車両へ通信して、乗員に安全と安心を感じさせる車両移動」の実現が不可欠です。この研究テーマでは、これらの実現に向けて「遠隔運転コクピットと車両」「コクピットと車両間で情報をやり取りするための通信セキュリティ技術」「通信遅延により生じる映像とモーションのずれによる違和感を抑えるための機能」など、さまざまな要素技術の開発を進めます。

「遠隔操縦付き自動運転車」プロジェクト

製品化を見据えた 研究を体験できる

◎川上 勇剛さん（組込みシステム研究室）
大学院経営情報科学研究科 博士前期課程
経営情報科学専攻 2年

「遠隔操縦付き自動運転車」プロジェクトには愛工大の8つの研究室が参画し、知恵と技術を結集して開発に取り組んでいます。これだけ多彩な分野の学生が果たしてベクトルを一つにできるのだろうか——プロジェクトの開始前は、そんな不安もありました。しかし、その不安は開発がスタートするとすつかり消えました。それぞれの得意分野を生かして連携し、時には刺激し合いながら一体感を持って取り組んでいます。

このプロジェクトの中で私は自動運転の技術開発を担当しています。オープンキャンパスでは学長を乗せた車両で自動運転のデモ走行を行った実績もあります。

「知の拠点あいち」における研究は企業の方々と共に取り組むため、大きく視野を広げられると感じています。学生だけで研究していると、どうしても最終形をイメージするのが難しい面がありますが、企業の皆さんは研究の中で「実際に製品やサービスとして実現するにはどうしたらよいか」を常に意識しています。そのような文化を学生のうちに体験できることは、とても有意義だと実感しています。

「安全性」への 意識や技術を学びたい

◎鈴木 建哉さん（知的システム研究室）

大学院工学研究科 博士前期課程
電気電子工学専攻 1年

車両から送られてきた映像を見て運転する——それが遠隔運転です。私は遠隔運転者が見る映像を、より操縦しやすいものにしていくための技術開発を担当しています。

これまではコンピューターを使ったコミュニケーションが中心でしたが、今後は実際の車両を



写真左から岡本悠佑さん、鈴木建哉さん、永井雄馬さん、川上勇剛さん、太田千遥さん、山本貴大さん、井上佳さん、香田直樹さん

それぞれの
研究プロジェクトに関わる
学生たちに話を聞きました

使い、人が搭乗した状態での実験も進めていきます。ソフトウェアの知識だけでなく、車両の機構や通信環境に関することなど、私にとっては専攻外の知識も高めていく必要があるため、習得に努めています。

企業の方々のミーティングでは、「人々に安全なものを提供する」ことへの意識を強く感じます。「安全性」は遠隔運転の実用化に向けて何よりも大切な部分だと思うので、「知の拠点あいち」での共同研究を通じて、しっかりと学んでいきたいと考えています。

逆に私たちから企業の皆さんに提供し、活用していただきたい研究成果もあります。企業の方が持つノウハウに、私たちの研究成果を加えることで、より人に優しい遠隔運転システムが構築できると考えています。

「直流スマートファクトリー」プロジェクト

施設・設備も、人も、 素晴らしい環境です

◎グエン・デュイ・ティンさん

（電力システム研究室）

エコ電力研究センター ポストドクトラル研究員

直流スマートファクトリーでの使用を想定した変換器と電気自動車給電器の開発を担当しています。

「知の拠点あいち」での研究に自分が携わることができると知った時は、大変うれしく思いました。より大規模な実験環境の中で研究に取り組めますし、企業とコラボレーションできるからです。愛知県の企業に私の持つ知見を提供し、新たなビジネスの創出に貢献できることを、とても光栄に感じています。



写真左からグエン・デュイ・ティンさん、岩根佑治さん、津坂亮博さん、小林優介さん、福山剛健さん、加藤巨輝さん

以前は芝浦工業大学で博士研究員を務めていました。「次はパワーエレクトロニクスの技術を学びたい」と思っていたところ、当時の指導教員から「愛工大の雪田先生の研究室なら、その分野でさまざまな新しい技術にトライしているから学べる人が多いと思う」と伺い、門を叩きました。

愛工大は教育面・研究面ともに施設・設備が非常に充実していると感じています。また、ベトナム出身で日本語を話せない私を周りの皆さんが親切にサポートしてくれて、素晴らしい環境で研究に取り組むことができています。

知識と現実社会を 結び付けていきたい

◎津坂 亮博さん（電力システム研究室）

大学院工学研究科 博士前期課程
電気電子工学専攻 2年

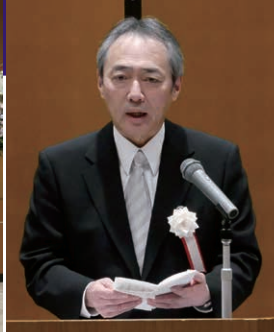
電力供給システムの研究はさまざまな大学で行われていますが、愛工大のように風力発電システム、太陽光発電システム、自家発電電機など、実際の装置を使って実証実験を行える環境を備えている大学は、他にあまりありません。シミュレーションだけでは気付けないことも発見できるので、恵まれた環境で研究できていることを実感しています。

企業と共同研究する機会はこれまでもありました。しかし、「知の拠点あいち」のプロジェクトに携わることで、さらに多くの企業の方と力を合わせて研究に取り組める機会を得られ、うれしく思います。このプロジェクトを通して、研究室で身に付けた知識と現実社会を結び付けていきたいと考えています。

現在、大学院博士前期課程2年です。春からは博士後期課程に進み、修了後は愛工大で教員になりたいと考えています。私は名電高校出身で、高校・大学・大学院と、ずっとこの学園にお世話になってきました。将来は後輩たちの成長を支えることで、私を成長させてくれたこの学園に恩返しをしていきたいと考えています。



写真左／永年勤続表彰の皆さん 写真右／挨拶する後藤泰之理事長



学園だより

式典・法要



謝辞を述べる徳田豊教授

永年勤続表彰の皆さん

勤続45年 4人

- 徳田 豊 大学工学部電気学科教授
- 小原史朗 大学基礎教育センター教授
- 八尺政文 高校教諭
- 河野ひとみ 大学事務局経営情報科学研究科・情報科学部事務主査

勤続35年 2人

- 岡森 茂 大学事務局経営情報科学研究科・情報科学部事務室事務長
- 工藤洋子 大学事務局自由ヶ丘キャンパス事務室係長

勤続25年 11人

- 鳥井昭宏 大学工学部電気学科教授
- 平野正典 大学工学部応用化学科教授
- 榎田玄一郎 大学工学部機械学科教授
- 村中 正 大学基礎教育センター教授
- 福田 博 高校教諭
- 船本広之 高校教諭
- 加藤千晴 高校教諭
- 岡田宏行 大学事務局学術情報センター情報システム課課長補佐
- 上田英貴 大学事務局入試センター入試広報課係長
- 出川可奈 大学事務局学術情報センター図書館事務課係長
- 宮川早和子 大学事務局教学センター教務・学生サービス課学生サービスグループ係長

勤続15年 6人

- 服部洋兒 大学経営学部経営学科教授
- 野々垣篤 大学工学部建築学科准教授
- 篠木真智子 法人事務局財務部会計課事務主任
- 山内里沙 法人事務局総務部人事課事務主任
- 葛谷新一郎 大学事務局自由ヶ丘キャンパス事務室係長
- 金子恵理子 大学事務局学術情報センター情報システム課事務主任

名古屋電気学園の創立107周年記念式典が11月8日、若水キャンパス浄和記念館3階記念ホールに学園関係者・来賓合わせて115人を迎えて開かれました。高校吹奏楽部の伴奏で国歌斉唱した後、後藤泰之理事長が「永年勤続表彰を受けられる

方々がそれぞれに刻まれた歴史には、私どもには想像のつかないご苦労があったと推察します。その日々の積み重ねが学園創立107周年につながったと、思いをはせています。学園をはじめ私立学校を取り巻く環境に引き続き厳しい状況が立ち上がっている中、学園は進化を続けていくことが求められています。物づくり教育を柱に優秀な人材育成に努めていくことが学園の使命であり、これからもと

も力を合わせて学園の発展のためにご尽力たまりますようお願い申し上げます」と式辞を述べました。

45年、35年、25年、15年の永年勤続者を表彰し、受賞者を代表して大学工学部電気学科の徳田豊教授(勤続45年)が、昭和48年末に若水で面接試験を受けた思い出などを振り返りながら「オイルショック、バブル

景気、リーマンショックなど、学生の就職状況から時代の変遷を実感してまいりました。科学技術の分野では、電卓、パソコン、液晶ディスプレイ、カーナビ、スマートホンと新しい技術が次々と現れ、すごい時代を経験してきたと思います。授業では、

学生に10年、20年先何が起こってくるか、それに関してどのように関わりを持っていくか、と問うています。学園の発展を目的の当たりにできたことも大きな喜びでした。今後、このような蓄積を基に、理事長の後藤泰之先生を中心に、さらに学園が発展していくことを期待しています」と謝辞を述べました。

創立記念式典に続いて、会場を覚王山日泰寺に移して学園の物故者法要がしめやかに営まれました。この1年間に亡くなられた方々を含む物故者のご遺族が招かれたほか、祭主の後藤泰之理事長をはじめ学園関係者や設置校の学生・生徒を合わせて303人が参列しました。

読経が流れる中、後藤理事長を先頭に焼香の列が続ぎ、物故者の冥福を祈りました。最後に後藤理事長が「学園が苦しかった時、つらかった時にご努力された先人の方々の思い、志半ばで亡くなられた皆様の思いを胸に、われわれ教職員一同、力を合わせてますますの発展に努力してまいります」と祭主挨拶を述べました。この後、近くの学園墓地でもお参りが行われました。



故人の冥福をお祈りした物故者法要

令和2年仕事始め 後藤泰之理事長が年頭の挨拶



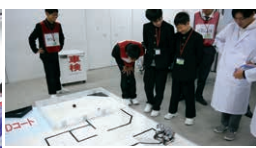
年頭の挨拶をする後藤泰之理事長(八草キャンパスで)

令和2年の仕事始めにあたり、後藤泰之理事長は1月6日に八草キャンパスと若水キャンパス(中学・高校)で年頭の挨拶をしました。愛知県の「知の拠点あいち重点研究プロジェクト二期」に大学の研究テーマ2件が採択されたことを受け、八草キャンパスで後藤理事長は「本学の研究シーズが地元産業の問題解決や新技術の開発・実用化に大きく寄与すること」を期待

されていると述べ、横断的な研究や数理・データサイエンス教育の取り組みを重視していく方針を示しました。そのうえで「本学の強み・特色をさらに明確にし、この地域で必要とされる魅力ある大学づくりをしていきたい」と、教職員の結束をあらためて呼び掛けました。専門学校でも1月7日に飯吉僚校長が年頭の挨拶をしました。

ロボカップジュニア 東海ブロック大会開催

ロボカップジュニア2019東海ブロック大会が12月7日、学園の淳和記念館(名古屋市中心区若水3)オープラボで開催され、出場した小中高生たちが自律型ロボットのプログラム技術とアイデアを競いました。大会は、「サッカー」「レス



レスキュー競技



オンステージ競技



サッカー競技

ワールドリーグレスキューライン(世界大会への選抜を目的とするリーグ)

- ① 闇の炎の使い手
- ② team Silva (愛工大名電中学3年・鈴木雅富、浅利慧)
- ③ meiden monster (愛工大名電高校2年・澤田芽杜、吉田大、山田日向)

日本リーグレスキュー(普及を目的とするリーグ)

- ① ドラゴン
- ② とみかん (愛工大名電中学2年・富田貴太)
- ③ Fish Catch (愛工大名電中学2年・フィーシー コナーロバート)

キュー」「オンステージ」の3競技。この日は名古屋市の河村たかし市長が会場を訪れ、開会式の挨拶で、2021〜2023年の3年連続で「ロボカップジュニア・ジャパンオープン」を名古屋市中で開催するという誘致結果を正式に発表しました。東海地区の予選を勝ち抜いた出場者が熱い対戦を繰り広げる中、レスキュー競技に出場した愛工大名電中学と愛工大名電高校のチームも、リーグ準優勝など優秀な成績を収めました。成績上位者は、4月24〜26日に和歌山市で開催される全国大会に出場します。レスキュー競技各リーグの1〜3位は次の通りです。



河村たかし名古屋市長らを囲んで、出場者たち



名古屋電気学園だより

後藤すゞ子先生 奨学金を交付

学園が制定する「後藤すゞ子先生奨学金」が11月18日、大学経営学部学生に交付されました。

奨学金は、元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。交付は八草キャンパス本部棟で行われ、副学長らが立ち会いました。後藤泰之理事長が奨学金の趣旨を説明して保護者に手渡し、学生に「しっかりと勉強し、力をつけて社会に出るように」と励ましの言葉をかけました。



防災訓練(図上訓練)

学園と全設置校4校を挙げた防災訓練が昨年11月6日、教職員と学生・生徒ら総勢5234人が参加して繰り広げられました。

訓練は紀伊半島沖を震源とする東海・東南海連動型巨大地震が発生したとの想定で行われ、授業中の学生や生徒たちは机の下に隠れるなど退避した後、一斉に避難場所に向かいました。八草キャンパスでは学生の負傷などを想定し、救護活動など被害拡大の防止に努めました。

このほか、11月19日には初の試みとなる図上シミュレーション訓練が八草キャンパスA1Tプラザで行われました。情報収集、初期消火、救出救護、避難誘導など各班の担当者が、地震発生時の情報伝達や指示のやり取りを想定した訓練に取り組み、問題点を洗い出しに努めました。



図上シミュレーション訓練

後藤杯卓球

第49回後藤杯卓球選手権大会《名古屋オープン》が1月25、26日、岡崎市の岡崎中央総合公園体育館で開催されました。中2以下のカデット、小6以下のホープス、小4以下のカブの各部男女(いずれもシングルス)に、全国から1553人が参加しました。開会式では愛知県卓球協会の竹内敏子副会長が挨拶に立ち、はつらつとしたプレーを呼び掛け、ピンポン外交に尽力した元日本卓球協会会長、元学園理事長の故後藤鉦二先生の業績を紹介しました。愛工大名電中学校の中村煌和選手が宣誓し、広い会場で2日間の熱戦が繰り広げられました。



熱戦を繰り広げる選手たち

入試実施

大学入試の前期日程はA方式(記述式)が1月27、28日、M方式(マークセンス式)が同29日の3日連続で行われました。試験は八草キャンパス、自由ヶ丘キャンパスのほか、豊橋、一宮、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡の各地方会場で行われました。八草キャンパスでは早朝から受験生が訪れ、会場となった10号館、1号館の割り当てられた教室に入室。ピンと張りつめた空気の中、試験問題に取り組みました。

3学部7学科14専攻の募集人員598人に対し、志願者は7550人でした。3日間の試験中トラブルもなく、平穩に日程を終了しました。高校の一般入試は2月4日に行われました。志願者は普通科が347人の募集に対し3920人で倍率は11.3倍、科学技術科・情報科学科は200人の募集に対し514人で倍率は2.6倍でした。

高校の受験では受験環境の均等化をはかるため、平成29年から大学の施設も使用して入試を実施しています。試験は高校で

午前8時30分から、大学の自由ヶ丘キャンパスと本山キャンパスで午前8時50分から行われました。

中学の入学試験は1月18日に奨学生A・B入試、19日に第1回一般入試の日程で行われました。105人の定員に対して志願者は合わせて877人で、倍率は8.4倍でした。

正門付近では、受験する児童たちが出迎えの進学塾関係者から励ましの声を掛けられました。児童たちは各教室で担当教諭の説明を受けた後、筆記試験に真剣な表情で取り組みました。



問題の配布を受ける受験生たち



学内イベントや研究室の様子など愛知工業大学の様々な情報を発信しています。



愛知工業大学の公式チャンネルもご覧ください。

AI-Tサイエンス大賞 57テーマで発表

科学技術立国を支える若者の育成を目的に本学が制定する研究発表会 AI-Tサイエンス大賞が11月2日、八草キャンパスで開かれました。愛知、岐阜、三重、静岡、長野各県の高校生に呼び掛けて論文・作品を募集、成果を顕彰しており、今年で18回目。「自然科学」「ものづくり」「社会科学・地域づくり」の3部門で57テーマの発表がありました。

午前は部門別にステージ発表があり、チームを組んだ生徒たちが各テーマ5分間の持ち時間でプレゼンテーションを行いました。午後は1号館や AI-Tプラザでパネル展示発表し、さらに詳しく説明しました。パネル展示の会場では参加者が質問し合い、交流と理解を深めました。

内田臣一教授（自然科学部門）、杉野丞教授（ものづくり部門）、石井成美教授（社会科学・地域づくり部門）ら本学の専門教員27人が委員となって発表の独創性や工夫、コミュニケーション力などを審査しました。審査の結果、岐阜県立岐阜農林高校の「醤油粕を酸化触媒として利用した使い捨てカイロの開発 PART2」と臭いの改善（ものづくり部門）が最優秀賞を受賞しました。

大学と姉妹校提携を結ぶ中国・東南大学の訪日代表団が12月10日、八草キャンパスを訪れました。一行は東南大学の黄大衛副校長を団長とする6人で、後藤泰之学長が本部棟で出迎え、山田英介・曾我部博之両副学長も同席して歓迎の懇談会が開かれました。

研究交流を通して学生同士がもっとつながっていきけるように」と期待感を表しました。交流の歴史を深く知る黄副校長は「さらに多くの学生たちに来てほしいと思います。もしご希望があれば、愛工大での中国語教育の一助となる用意があります」と呼び掛けました。



ステージ発表のプレゼンテーション



パネル展示発表で質問に答える高校生

自然科学部門

愛知県立明和高校「色と熱吸収に関する研究」/岐阜県立岐阜高校「環境DNA定量解析を用いた生物モニタリング～長良川・揖斐川におけるアユと冷水病菌の動態～」/愛知県立時習館高校「汐川干潟をホット掘り下げた!!」

ものづくり部門

名古屋市立向陽高校「ミウラ折りサンドイッチパネル構造の強度に関する研究 Part2」/岐阜県立岐阜農林高校「醤油粕を酸化触媒として利用した使い捨てカイロの開発 PART2～発熱と臭いの改善～」/愛知県立半田高校「廃プラスチックを用いた水質浄化装置の開発～イオン交換樹脂の可能性～」

社会科学・地域づくり部門

岐阜県立多治見高校「水辺の小さな自然再生in土岐川及びその支流」/愛知県立一宮高校「自作プラネタリウム公開6年を迎えて～天文普及活動を通じて～」/愛知県立豊橋東高校「日本ジオパーク認定を目指して～『ゲームをするならGEO(ジオ)』活動報告～」

2020年に、記念式典を本学で開催し、時期は東南大学の学生団訪日に合わせた10月とする。後藤学長は、お互いが受け入れている留学生の活動にふれて、40周年を機に、



後藤泰之学長らを囲み、東南大学訪日代表団の皆さん

この後、電気科学と工程学院の花為教授が電気学科で、自動化学院院長の袁暉輝教授が情報科学科で、それぞれ特別講義を行いました。黄副校長は学内を見学しました。12月9日に来日した一行は、本学のほか奈良・京都にも足を延ばして13日に帰国しました。



「あいちITSワールド2019」開催
 名古屋モーターショー(11月21〜24日・ポートメッセなごや)会場で同時開催された「あいちITSワールド2019」に、本学からも関連する研究室や学生のプロジェクトなどが出展しました。

ITS(高度道路交通システム)に携わる企業・大学・行政が最新のテクノロジーや研究成果を発表するイベントで、本学の出展は6回目。「HAVRecチーム」「自動車研究室」「ロボット研究ミュージアム」が、それぞれブースを設け、完全自動運転を補完するための遠隔運転に必要な要素技術や、授業で製作したエコラン参戦車両、フライドポテト盛り付けなどの技を仕込んだアーム型ロボットなどの研究成果を披露しました。

オープンコースの部

優勝・小岩井軍団/
 準優勝・カントリーマアムはバナナが好き/3位・メガネ25%

学生・教職員交流の部

優勝・ご安全に1/準優勝・ご安全に2/3位・塚田研C

スイーツ駅伝の部

優勝・Team Adventure/準優勝・大学祭2/3位・松河研究室

選手権の部

優勝・バドミントン部A/準優勝・ERCII/3位・チームNo.2

530人が参加して開かれました。鳥井昭宏教学センター長の挨拶と選手宣誓の開会式に続き、参加者が「オープンコース」、「学生・教職員交流」、スイーツを食べながらの「スイーツ駅伝」、「選手権」の各部に別れてタイムを競いました。豊田市立大畑小学校の児童も特別参加しました。各部門の3位までの成績は次の通りです。



第39回愛工大駅伝大会
 駅伝大会は11月12日、秋晴れの八草キャンパス内コースに学生・教職員98チーム

**530人が健脚競う
第39回愛工大駅伝大会**

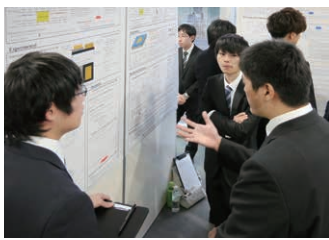
国際ワークショップは電気学科の雪田和人教授が議長を務め、国内をはじめドイツ、中国、台湾から計10人の発表者が招待されました。本学の鈴置保雄総合技術研究所長が開会の挨拶で議論と今後の展開に向けた課題発掘を呼び掛けたに続

国際ワークショップ「IWGEDS2019」を開催
 大学が取り組んできたプロジェクト「グリーンエネルギーのための複合電力技術開拓(新エネルギー技術開拓拠点)」の最終年度に当たり、成果の報告や情報発信を行う2回目の国際ワークショップ「IWGEDS(International Workshop on Green Energy System and Devices)2019」が12月2日、八草キャンパス1号館で開催されました。

同プロジェクトは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成事業「ナノ材料制御技術による新規太陽光エネルギー利用統合技術の創出(グリーンエネルギー研究拠点)」の成果の上に2015年度に立ち上げられ、再生可能エネルギーによる新エネルギー技術を中心としたグリーングリッドシステムの構築に5年にわたって取り組んできました。

「欧州最大の応用研究機関であるフラウンホーファー研究機構の集積システム・デバイス技術研究所のJulian Kaiser博士による「Research D.C. Microgrid Installation at Fraunhofer IISB (フラウンホーファー研究機構集積システム・デバイス技術研究所における直流マイクログリッド設置に関する研究)」などの発表が順次行われました。

本学の研究者も参加してシステムの運用と材料、デバイス技術の両面にわたって12件の口頭発表と29件のポスター発表があり、盛んに質疑を重ねました。



活発に質疑を重ねたポスター発表



発表するJulian Kaiser博士



講演する名古屋大学の冨田教授

安全講演会「化学物質を使用する研究室の火災を防ぐ」
 大学環境保全対策委員会は12月16日、名古屋大学環境安全衛生管理室室長の冨田賢吾教授を講師に招いて、「化学物質を使用する研究室の火災を防ぐ」と題した安全講演会を10号館大講義室で開催しました。

冨田教授は、本物の建物・実験室を使って取り組んできた火災実験の映像を交えて、「火災を発生させない」「火災を拡大させない」「火災発生時死傷者を出さない」ための対策について話しました。万一の際に犯しがちなミスにも触れながら具体的に解説し、高価な実験装置を水損などから守るための配慮についても述べました。

安全講演会「化学物質を使用する研究室の火災を防ぐ」

「ものづくりに役立つ計測・診断・制御技術」

大学総合技術研究所は名古屋産業科学研究所との共催で12月18日、第13回A-I-Tテクノサロンを本山キャンパス講義室で開きました。「ものづくりに役立つ計測・診断・制御技術」をテーマに、電気学科、機械学科、情報科学科の教員が話題を提供しました。

大垣共立銀行、豊田信用金庫、名古屋銀行の協賛を得て、地域の企業経営者や技術担当者をはじめ教員ら合わせて50人が参加しました。挨拶に立った鈴置保雄所長は「双方向のコミュニケーションをはかる場」と呼び掛け、大学の概要と産学連携の取り組みについて話しました。

1件目の話題は、鳥井昭宏



参加者の質問に答える鳥井昭宏教授

電気学科教授による「計測と制御」マイクロロボットを題材に。計測・制御とは、計測した結果を改善に生かす技術のことです。IoT技術の進歩により、離れたところにある機械やロボットの動作を計測することで、動作の改善や生産性の向上が可能となっています。鳥井教授は、パワーエレクトロニクス研究室で開発したマイクロロボット

の計測と制御について紹介しながら、IoT技術が果たしている役割への考えを述べました。

2件目は、田中浩機械学科教授による「切削工具長寿命化」電界砥粒制御技術を用いた刃先研磨加工。切削工具は、ものづくりの基本に欠かせません。近年、微細加工や研

磨技術により、工具刃先表面を精密に制御し、刃先摩耗や欠損を低減させる試みが活発です。田中教授は、研究している電界砥粒制御技術を用いた刃先研磨加工とその効果について紹介しました。

3件目は、中條直也情報科学科教授による「システムのセンシングと故障予知」。FAシステムや運転支援システムの保守管理は重要な課題です。センサデータに基づいてシステムの故障を予知し、保守を効率的に行う予知保全の技術が注目されています。FA機器やADASの故障予知を目指した研究などを紹介しました。

4件目は、小野木克明情報科学科教授による「システムモデルに基づく異常発生予測とその回避」。ものの流れの制御が中心となる生産システムでは、予期せぬ原材料・装置の特性変化や突然の生産計画の変更が、システムの性能・安全性を著しく劣化させることもあります。小野木教授は、これらの不確実性がもたらす異常を予測し、回避する手法について解説しました。

終了後は交流サロンが開催され、参加者と教員らが軽食をとりながら和やかに意見交換しました。

第3回工大サミット 国際社会で活躍できる理工系イノベーション人材の育成について議論

本学を含む理工系7大学（愛知工業大学、大阪工業大学、芝浦工業大学、広島工業大学、福岡工業大学、東北工業大学、神奈川工科大学）による「第3回工大サミット」（文部科学省後援）が11月30日、福岡県の福岡工業大学で開催されました。

理工系イノベーション人材に必要な学びは何か、そのために理工系大学が取り組むべきことが今回のテーマとなりました。7工大の学長によるパネルディスカッションで、本学の後藤泰之学長はIRの取り組みについて話したほか、「工大サミットを通してグッドプラクティス（優れた取り組み）を共有し、成長指標の策定に期待したい」と述べました。ディスカッション終了後は、グローバル教育や教育力の可視化などについて活発な情報・意見交換が行われました。

続くワークショップでは、本学のIRデータの活用方法を、曾我部博之副学長が報告し、これらに基づいてIRデータをどう教育に活かしていくかの議論が行われました。また、学生による発表では、本学工学部応用科学科4年生林万祐菜さんが、国際会議に参加した体験を通して身につけた考えやスキルなどを述べました。



7工大の学長らによるパネルディスカッション



発表を行う林万祐菜さん



角日出夫氏 (元ラグビー日本代表) を招いて教育講演

元ラグビー日本代表で、チタカ・インターナショナル・フーズ社長として経営手腕を發揮した角日出夫氏（現エストエイチ株式会社代表取締役社長）を講師に招いての教育講演会が、11月11日、経営学部自主企画として八草キャンパスで開かれました。

「スポーツを通じて得た精神こそ、社会で生き抜く原動力である。経営者の視点から体育会出身者に求めるもの」と題して、角氏は基本的な考え方として「強くなるよりも誇りあるチーム作りを目指してほしい。自分と仲間を最後まで信じる強い気持ちが大切」と訴えました。また、「自分の将来は、自らの努力で築くもの」としながらも、「他力（恩師など）の精神的支柱・文化や伝統など」の存在を大切に」と呼び掛けました。



講演する角日出夫氏

堤幸彦監督が 特別講義

映画「TRICK」や「20世紀少年」などを手掛け、2010年から本学の客員教授を務める堤幸彦監督が12月4日、八草



キャンパス1号館3階メディア視聴覚室で情報科学科3年生を対象に「デジタル映像処理及び演習」の特別講義を行いました。



この授業では、個人ドキュメンタリー、アーティスティック、アニメなどさまざまなジャンルのテーマを設定して映像作品の制作に挑戦します。作品は自作の手描きイラスト

小林ゼミが普及に取り組むドギーバッグ、 小泉環境相が「根付かせる運動を」

まだ食べられる食品が捨てられる食品ロスの削減を目指し、関係6省庁・有識者による「食品ロス削減推進会議」の第1回会合が11月25日に東京都内で開かれ、本学から経営学科の小林富雄教授が出席しました。

出席し、10月に施行された「食品ロス削減推進法」の基本方針策定に向けた話し合いをしました。この中で、米国などで普及が進むドギーバッグ（飲食店で食べ残した料理などを自己責任で持ち帰るための容器）について、小泉環境相から「この機会に他の大臣とも連携し、根付くよう活動したい」と強い言葉がありました。



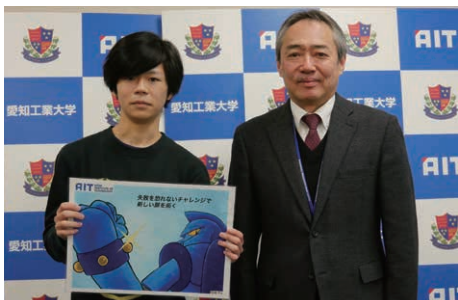
小林ゼミが普及を進めるドギーバッグ

小林ゼミ（マーケティング戦略研究室）では、イベントへの出展など、学生チャレンジプロジェクトの活動を通じてドギーバッグの普及に努めています。

学生から募集の 看板デザイン決まる

八草キャンパス最寄りのリニモ八草駅と愛知環状鉄道八草駅に設置する大学常設看板のデザインを今年度も学生から募り、学生投票と学内会議を経て、機械学科機械工学専攻3年の柴田直樹さんの作品が採用されました。看板デザインは愛工大のイメージキャラクター「鉄人28号」を使用。柴田さんの作品は、鉄人1号、2号と失敗を積み重ねて生まれた鉄人28号が、ふりむきさまにガッツポーズしている絵柄で、「失敗を恐れないチャレンジで新しい扉を拓く」逞しさを表現しています。

柴田さんは1月23日に後藤泰之学長から表彰を受けました。



後藤学長から表彰された柴田直樹さん

令和元年度
就職状況について

キャリアセンターでは、就職支援、インターンシップ支援、資格取得支援、キャリア教育支援の4つを柱に業務を展開しており、その中心が就職支援です。「1人ひとりの学生を一人前の社会人として社会に送り出す」というスローガンを掲げ、学生をサポートしています。

就職状況につきましては、2019年3月卒業生の実就職率で98.0%と、某週刊誌の発表で卒業生1,000人以上の大学(国公立含む)で全国2位でした。求人状況につきましても、昨年度同時期と同程度の14,800社(2019年10月1日現在)を超える求人票をいただいています。

インターンシップへの参加はさらに活況となり、今年度の単位認定対象となる夏季インターンシップに地元企業を中心に337社に受け入れていただく中、612名の学生が参加しました。



キャリア教育支援では、低学年から将来を具体的にイメージできるよう取り組んでいます。資格取得支援でもキャリアアップに繋がる講座の開催を通して、学生を少しでもバックアップできるように注力しています。

ゲーム&WEB業界
研究会2019を初開催

10月25日、八草キャンパス1号館でゲーム&WEB業界研究会2019が初開催され、情報科学科を中心とする学生71人が参加しました。東京をはじめとする愛知県外に本社を構える企業を含め、計11社から経



営者や採用担当者、そして第一線で活躍するエンジニアが集結。熱気あふれる中で、自社の取り組みや求められるスキル、人材像について説明がありました。また、当日は東京ゲームショウ2019に出展した情報科学研究室(水野慎士研究室・松河剛司研究室)のゲーム作品も一部展示され、人気を集めました。

・参加企業：(株)インビリティ(愛知県)、エキサイト(株)(東京都)、(株)グランゼーラ(石川県)、サン電子(株)(愛知県)、シースリーインデックス(株)(愛知県)、(株)ハンド(北海道)、(株)ユークス(大阪府)、楽天(株)(東京都)、(株)レパルファイブ(福岡県)、(株)ロジカルビート(神奈川県)、ワンダープラネット(株)(愛知県) ※カッコ内は本社所在地
・協力企業：(株)ローカルイノベーション(第1部業界説明を担当)

学食で
「モグジヨブ」開催

八草キャンパスのセントラルテラス2階(学食)で12月16〜18日の3日間、学生が企業の担当者とランチを食しながら仕事(ジョブ)について学ぶ「モグジヨブ」(愛知工業大学キャリアセンター・豊田商工会議所・株式会社タスキ主催)が開催されました。3日間で、スマホから申し込みをした3年生を中心とする延べ26人の学生と豊田市内

に本社を構える9社が参加しました。ランチを前に打ち解けた雰囲気になる中、話題は仕事の内容だけでなく、企業の担当者からは就活の先輩として学生たちにアドバイスを送る姿もみられました。



各種セミナー開催

「愛知ブランド企業研究セミナー」
「業界研究セミナー」開催

来春卒業予定者の就職活動開始を控え、「愛知ブランド企業研究セミナー」と「業界研究セミナー」が年末年始の時期に八草キャンパスで相次いで開催されました。愛知ブランド企業研究セミナー(12月23日)は「企業を選択する力」を学生たちに身につけてもらう狙いで、独自の強みを持つ愛知県内5社の採用担当者によるパネルディスカッションが行われました。一方、学生たちに業界・業種への理解を深めてもらう業界研究セミナーは、サービス(12月24日)、自動車(1月7日)、IT(8日)流通・運輸(9日)、化学(10日)、食品・一般機械(20日)の日程で計20社が参加しました。



愛知ブランド企業研究セミナー

DENSOグループ
学内合同セミナー

DENSOグループ学内合同セミナーが12月6日、八草キャンパスで開かれました。例年この時期、グループ会社の中から選出された幹事企業が準備や当日の進行を担当して開催しており、今年度で3回目となります。地元有名企業のグループ会社が参加するイベントとして人気があり、今回も学部3年生や院1年生を中心に70人ほどが参加しました。学生からは「各社の事業内容や製品だけではなく、グループの構造(どの企業がどのような役割・機能を担いグループ企業間でどのように連携しているか)を俯瞰してつかむことができ、参加してよかった」といった声が聞かれました。



遠藤守信・信州大学 特別特任教授が高校で講演

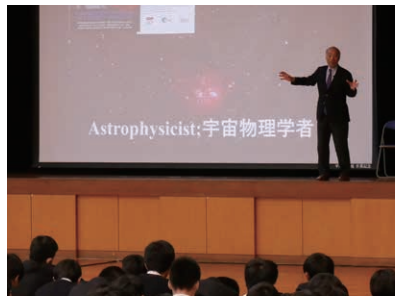
大学客員教授を務める遠藤守信・信州大学特別特任教授が11月21日、高校の喬徳館（体育館）を訪れ、1年生を対象にした講演を行いました。

元学園総長の故後藤淳先生と同郷（長野県須坂市出身）の遠藤教授には、特に若い世代に考えを伝えたいという思いがあり、高校に毎年足を運んでいただいています。

遠藤教授は、故郷の森で見られる昆虫の愛すべき生態などを紹介しながら「頂点に立つ人間が配慮しないとイケない」と、自然環境の保護から話を進めました。続いて、科学技術の国際競争で日本が先頭集団から脱落する危機にあることなどをデータを挙げて説明し、「学びの中で個性の輝きを競い、皆さんの中から人類に革新を起こす技術を生み出してほしい」と熱く呼び掛けました。

講演の後、生徒たちから寄せ

られた質問に答えて、遠藤教授から若者たちの未来を信じる希望に満ちたメッセージが贈られました。



高校1年生たちに話す遠藤守信教授

名電高校生が大学で 課題研究を発表

名電高校専門学科の3年生たちが12月14日、取り組んできた課題研究の成果を大学八草キャンパスで発表しました。

高大接続事業の一環として、研究内容を大学の教員に専門的に審査・指導してもらう試みで、科学技術科、情報科学科の生徒合わせて179人が参加しました。

生徒たちが自主的に設定した研究テーマは48件に上り、バラエティーに富んだ内容です。電気、応用化学、機械、土木工学、建築、情報科学の各学科に分かれ、1テーマにつき5分程度の持ち時間で発表されました。審査に当たった教員からは、実験の意図や手法の妥当性など、突っ込んだ質問が次々と投げかけられました。

審査を経て優秀と評価された7グループによる全体発表会は、1月16日に高校喬徳館で専門学科全員の前行われました。グループの生徒たちは、時代を見据えた研究テーマの選定から今後の課題まで、プロジェクトを使って堂々と発表しました。下級生は「自分たちの課題を決める参考に」と真剣に聞き入っていました。

優秀7グループの発表テーマ

は次の通りです。

「堆肥発電（電気）」「エネルギー」「ゲームマネジメントカーの製作」（電気）▼「身の回りのものから作るカゼインプラスチック」（応

用化学）▼「旋盤加工技術の習得（機械）」「自然を生かした防災・減災（土木工学）」「幼老複合施設（建築）」「便利なゴミ箱の追求（情報科学）」



大学の教員の質問を受ける専門学科の生徒たち

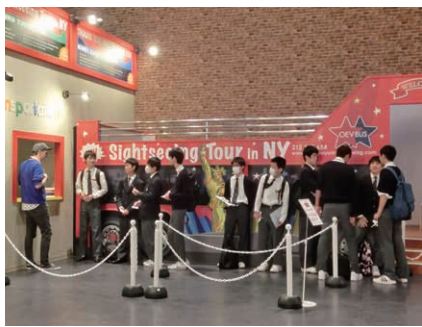


喬徳館で行われた全体発表会



中高一貫コースの3年生が 大阪英語村へ語学研修

大阪府吹田市千里万博公園内にある大阪英語村は、民間の英語研修施設で、ネイティブ講師との英会話体験により、さまざまなシチュエーションに応じた英会話を学ぶことができます。今回(11月6日)は「天気やニュースをレポート」「レストランでの会話」「海外旅行」などの場面を想定した実践的な英会話レッスンを受講しました。英語村のスタッフと自発的に会話を繰り返し生徒たちからは「自分の英語が通じてうれしかった」「英語は得意でないが、ジェスチャーで通じたので驚いた」「英語力をもっと磨いて会話を楽しみたい」とポジティブな意見が聞かれました。



中高一貫コースの 1年生がJICA訪問

期末考査明けの12月7日、中学1年生が国際理解教育の一環としてJICA中部なごや地球ひろばを訪問。世界はどんな問題を抱えているのかを知り、その解決方法や自分ができることを考えました。青年海外協力隊員の経験談を聞き、館内の展示に触れることで、世界に対する視野を広げました。それぞれがテーマを決めて、英語の授業でポスター作成を行いました。



大学への 編入学者激励

専門学校から今春、大学への編入学を予定する学生たちが1月17日、飯吉僚校長の激励を受けました。

編入学を志望する学生のうち、この日までに決定したのは14人。このうち愛知工業大学に7人が入り、編入学先は、情報科学科コンピュータシステム専攻、経営学科経営情報システム専攻、機械学科機械工学専攻が各2人、情報科学科メディア情報専攻が1人となっています。他大学へは、名古屋学院大学に3人、中部大学に2人、豊橋技術科学大学と東京情報大学に各1人が編入します。

激励会では、飯吉校長が専門学校と大学の違いなどを説明し



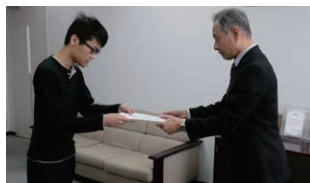
専門学校ニユース

Vocational College NEWS

「視野を広げて将来につながる勉強に励んでください」と親身に話しかけました。

遠隔地奨学生

専門学校は1月10日、遠隔地奨学生(後期)に奨学金決定通知書を交付しました。奨学生の選考基準は「前期の学業成績および実家が県外もしくは通学に2時間以上経る者」となっており、今回の対象者は高度情報処理学科の学生1人です。飯吉僚校長が通知書を手渡し、「勉学に励んでください」と声をかけました。



飯吉校長から通知書の交付を受ける学生

交通安全講演会

専門学校で10月7日、1年生を対象にした交通安全講話があり、豊田警察署交通課の池田剛巡查部長が事故防止の心構えについて説きました。愛知県が2018年まで16年連続で交通死亡事故ワーストという不名誉な記録を踏まえ、池田巡查部長は豊田警察署管内の交通死亡事故の実例などを現場写真や状況図を交えて解説。「ながらスマホ」による自転車などの事故が増えていることにも触れ「あすは我が身。事故はいつ起こるか分からないので、十分に気を付けて」と学生たちに呼び掛けました。



事故防止を呼び掛けた交通安全講話

クラブ活動報告

※学生の所属・学年は取材当時のものです。

高校サッカー部、バレーボール部が全国大会で熱い戦い

年末年始の時期、高校運動部の選手たちが大きな夢を見せてくれました。サッカー部が、12月30日に開幕した第98回全国高校サッカー選手権大会に、創部以来となる初出場。バレーボール部は、1月5日開幕の第72回全日本バレーボール高校選手権大会（春高バレー）に、3年連続17回目の出場を決めました。試合会場の応援席は、愛知県大会からクラスメート、他部員をはじめとする生徒や学園関係者で埋まり、一丸となって「MEIDEN頑張り！」の大声援を送りました。

■創部以来初、全国高校サッカー選手権出場

「明るく前向きに」がモットーの名電サッカー部は、戦術として前線からプレスをかける攻撃的なハイプレスを採用し、宮口典久監督の下でチームを鍛えてきました。愛知県大会では上位リーグに所属する刈谷や中京大中京を撃破し、決勝（12月16日・パロマ瑞穂スタジアム）で岡崎城西を4-2で下して1968年の創部以来初の全国選手権を射止めました。

選手権初戦は、福岡代表の筑陽学園と対戦。12月31日正午過ぎ、さいたま市のNACK5スタジアム大宮でキックオフした名電の戦いは、全国レベルの強豪を相手にしても変わらず、序盤から果敢にゴールに迫りました。主将・DF鈴木郁

人（3年）らの堅守もチームを盛り立てましたが、前半アディショナルタイムでの失点を挽回できず、惜しくも0-1で初勝利を逃しました。



キックオフ直前の笑顔(全国高校サッカー選手権)



強豪を相手に果敢にゴールに迫った(全国高校サッカー選手権)



スタンドを埋めた応援の生徒ら(全国高校サッカー選手権)

好セーブでチームを盛り立てた2年生GK安原哲平(全国高校サッカー選手権)

■春高バレーは3年連続17回目

一方、名電バレーボール部の愛知県大会決勝（11月23日・ドルフィンズアリーナ）

は、過去6年連続で覇を競った星城高校が相手でなく、その星城高校を準決勝で下した大同大同高校と対戦しました。第1・2セットを失った名電は、背水の陣から第3・4セットを連取し、勝負の第5セットを16-14で制して春高切符をつかみました。

選手権（1月5-12日・武蔵野の森総合スポーツプラザ）の1回戦は鳥取代表の鳥取中央育英と対戦し、第1セット25-19、第2セット25-16と連取して勝利を決めました。2回戦で、過去2回の優勝実績がある福岡代表の東福岡高校と対戦し、第1セットを17-25と失ったものの、第2セットを25-22と取り返ししました。勝負の第3セットで一時はリードを奪いましたが、接戦をものにできず23-25と涙をのみました。



春高バレー2回戦・東福岡戦



春高バレー2回戦・東福岡戦

■壮行会でエールを受ける

全国大会出場に先立って高校2学期の終業式後、喬徳館（体育館）で両部の壮行会が行われました。バレーボール部の工藤峻平主将は「最後の春高ではベスト4に入り、センターコートに立つ」、サッカー部の鈴木郁人主将は「2つでも多く勝てるよう、チーム一丸となって戦う」と、それぞれ決意表明。岩間博校長が「監督・スタッフ、選手・部員、応援の生徒が一つになつての『ワンスクール』として勝ちえた全国大会出場。最後まであきらめず、名電の仲間たちに力を与えてほしい」と激励しました。



壮行会で決意表明するバレーボール部の工藤峻平主将ら

大学●卓球部

「J-TTLファイナル4」で本学が初優勝!!

日本卓球リーグ(日本卓球リーグ実業団連盟主催)の今年度プレーオフとして、年間王者を決める「J-TTLファイナル4」が12月7〜8日、とくぎんトモニアリーナ(徳島市立体育館)で開催され、本学男子卓球部が初優勝を果たしました。大学チームによる日本卓球リーグ年間王者は、これが初めての記録です。

ファイナル4は、東京アート、協和キリン、愛知工業大学、シズン時計の今年度上位4チーム



初優勝の本学男子卓球部(写真はニッタンニュース提供)

ムで争われました。本学は、田中佑汰(1年)木造勇人(2年)高見真己(2年)松山祐季(3年)が出場。準決勝で協和キリンを3-2で下し、決勝でシズン時計と対戦しました。

王者を決める戦いにふさわしく、ファイナル4は全試合が5番までもつれる激戦になりました。決勝で、本学は2番の木造と4番の高見の勝利で2-2のタイスコアに持ち込み、ラストは松山が2日連続となる決勝点を挙げて初優勝を決めました。

大学●卓球部
田中佑汰は準優勝

全日学選抜で木造勇人が初の学生個人タイトル!

11月23、24日に埼玉県所沢市民体育館で開催された第16回全日学学生選抜卓球選手権大会で、本学男子卓球部の木造勇人(2年)が優勝、田中佑汰(1年)が準優勝しました。昨年大会優勝の吉村和弘(現・東京アート)、準優勝の高見真己(現・2年)に続く、本学選手によるワンツーフィニッシュを飾りました。

10月の全日学(全日本大学総合卓球選手権大会個人の部)で準優勝した木造は、危なげなく決勝トーナメントを勝ち上がり、一方、田中は接戦を制して決勝に駒を進めました。全日学ダブルス優勝ペアに



優勝の木造勇人(写真は卓球レポート提供)



準優勝の田中佑汰(写真は卓球レポート提供)

よる同士討ちとなった決勝では、木造が先輩の意地を見せて4-2で田中を下し、初の学生個人タイトルを獲得しました。

高校●卓球部

愛工大名電高校の曾根翔、篠塚大登が団体戦銅メダル

愛工大名電高校の曾根翔(2年)、篠塚大登(1年)が出場した2019世界ジュニア卓球選手権タイ大会(11月24日〜12月1日)では、団体戦準決勝で日本チームは中国と対戦。本大会団体戦王者となった中国を相手に4時間を超える熱戦を繰り広げ、惜しくも勝利を逃したものの、堂々の銅メダルに輝きました。

ロシアと対戦した団体戦の準々決勝では、篠塚が3番手で出場。チームのリードを決める1勝を挙げ、メダルを確定させた戦いに大きく貢献しました。

ベストメンバーをそろえた中国との準決勝は、事実上の決勝戦といえる戦いでし



曾根翔(写真はITTF提供)



篠塚大登(写真はITTF提供)

た。曾根が3番手で出場し、相手の劉夜泊選手に先手を取らせない素晴らしいプレーで大一番の抜擢にこたえました。曾根の勝利で2-1とリードした日本は、ここからの2試合を競り合いながらも2-3で惜敗し、激闘の幕を閉じました。

中学ほか●卓球部

全日本卓球・ジュニア男子で吉山僚一が初優勝

丸善インテックアリーナ大阪(大阪市中央体育館)で1月13〜19日に開催された全日本卓球選手権大会で、中学卓球部の吉山僚一がジュニア男子シングルス優勝を飾りました。頭角を現すスーパー小学生の松島輝空(木下グループ)が決勝の相手という注目の一戦で、吉山は第1ゲームを落としたものの、以後はペースを取り戻して3ゲーム連取し初優勝を決めました。

同種目では、高校の横谷晟も3位入賞したほか、吉山、横谷と高校の曾根翔、谷垣佑真、中学の鈴木楓の合わせて5選手がベスト8入り。この5選手に高校の篠

塚大登、小林広夢、大島史也、中学の萩原啓至を加えた計9選手がベスト16入りし、会場に名電旋風を巻き起こしました。

このほか、学園の選手たちは男子シングルスで大学の松山祐季と高校の横谷曾根の3選手がベスト16入り。男子ダブルスで大学の木造勇人・田中佑汰がベスト16、大学の松山が豊田自動織機の平野容子選手と組んだ混合ダブルスでベスト8など、好成績を収めました。



全日本卓球ジュニア男子優勝の吉山僚一(写真はニッタンニュース提供)

大学●陸上競技部

全日本大学駅伝に3年連続18回目の出場

第51回全日本大学駅伝対校選手権大会が11月3日、熱田神宮から伊勢神宮までの8区間106.8キロで行われ、大学陸上競技部は東海地区代表として3年連続18回目の出場をしました。1区・小林宏輔、2区・植松達也、3区・児玉勘太、4区・服部大暉、5区・鈴木高虎、6区・三浦真和、7区・大野誠士、8区・中村正明の各走者が、前回19位からの順位アップを目指しましたが、最終区間の8区で繰り上げスタートとなり、21位でのゴールでした。

上回り、チーム全体の底上げや走力アップ、安定感はできていることを証明できる結果でした。今後、全国との差を詰める取り組みをどう進化させていくかが課題になります」と話しています。

■出雲駅伝にも出場
同部は、10月14日に開催された第31回出雲全日本大学選抜駅伝にも3年ぶり11回目の出場を果たしました。前半の出遅れを後半区間で取り戻し、少しずつ順位を上げて17位でゴール。奥野監督は「次に向けた課題も発見され、競技力向上への意欲が増した大会でした」と話しています。

大学●競技スキー部

フリースタイルモーグルW杯第2戦で伊原遥香が6位入賞

フリースタイルスキーのワールドカップ(W杯)は12月14日、中国の張家口・太舞でモーグル第2戦が行われ、大学競技スキー部の伊原遥香(経営学科3年)が6位入賞しました。

伊原は昨シーズンの成績が認められて今シーズンから全日本ナショナルチームに昇格。ワールドカップメンバーにも選出され、12月から参戦しています。今シーズン初戦となる北欧戦では18位と決勝に進めませんでした。2戦目となる太舞大会は予選を3位で通過し、決勝で見事6位に入賞しました。

伊原は1年生時に全日本選手権で初め



フリースタイルモーグルW杯第2戦で6位入賞した伊原遥香

て入賞し、その後実績を積み重ねて全日本ナショナルチームおよびワールドカップメンバーに選出。1月末から開催のワールドカップ北米戦にも参戦しています。

高校●吹奏楽部

高校吹奏楽部第55回定期演奏会

高校吹奏楽部の定期演奏会が1月8日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜2部にわたり開かれしました。55回目の今年は、後藤泰之理事長の挨拶に続き、高校の部全国最多42回目の出場を果たした2019年度全日本吹奏楽コンクールの曲目を心を込めて演奏しました。

プログラムは、伊藤宏樹教諭らの指揮による全4部



吹奏楽ファンを魅了した定期演奏会

構成。A・リード作曲の「オセロ(1977)」より3曲や、ステージ・ドリルなどを披露しました。

第4部は、部員たちがつくり上げたミュージカル「美女と野獣」メドレーなどバラエティーに富んだ内容。客席をダンスで巻き込んだ「パブリカ」、合唱スタイルの「証(あかし)」なども交え、部のモットーの「絆」の強さを魅力たっぷりに伝えました。

高校●情報デザイン部

VRを用いた体験型防犯教室

情報デザイン部は、VR(仮想現実)の技術を用いて、児童が登下校時に身を守る方法を体験できるプログラムづくりに取り組んできました。11月9日に愛知県大町立大口北小学校で発表会がありました。小学生や地元住民の方に体験してもらいました。

江南警察署と共同で、子供の安全確保に関する「登下校防犯プラン」に基づき危機回避対策として取り組んだ体験型防犯教室です。情報デザイン部には伊勢村政明・江南警察署長から感謝状が贈られました。



ユグドラシル (世界樹)

Jun Amanto
Jun Amamiya
小川真騎子
櫻井武司

Dance × Music × Movie

11/9 sat. 2019

開場 17:30 開演 18:00
入場料: 3,000円 (全席自由)

会場: 長久手文化の家 森のホール
愛知県長久手市野田豊 201
TEL 0561-61-3411

TEAM AI Video production

【主催】ダンススペース夏
《照明》御原祥子 (音響) 上野康 《舞台監督》大蔵聡子
《マネージメント》 坂マネージメント・プロ 《デザイン》ながくてデザイン

【チケットのお問合せ】
info@ds-natsu.com http://www.ds-natsu.com/
【録画】長久手市、長久手市教育委員会

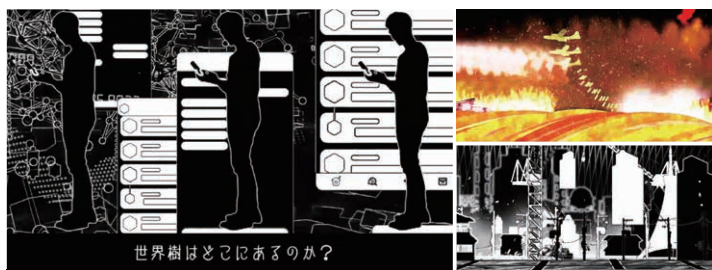
愛知工業大学TeamAI/メディア情報研究会と名電高校情報デザイン部 プロジェクションマッピング共同制作「ユグドラシル(世界樹)」

ダンサーの苅谷夏さんと、大学のTeamAI/メディア情報研究会 (情報科学科・鳥居一平教授) がコラボしたダンスとプロジェクションマッピングの公演「ユグドラシル (世界樹)」が、11月9日、長久手文化の家森のホールで催されました。

TeamAI/メディア情報研究会は、元愛知工業大学名電高校長の桜井正一先生から依頼を受け、同高校情報デザイン部と共同の80人のチームでプロジェクションマッピングを制作しました。当日は約400席が満席となり、映像、ダンス、音楽が一体となった独創的な世界を繰り広げました。

苅谷夏さんは「みなさんのご協力のおかげで大成功に終わりました」と涙を浮かべて挨拶し、制作リーダーを務めた大学のメディア情報専攻1年の森本朱偉君は「何度もリメイクを重ねて徹夜もしましたが、細部まで作りこみができた作品を多くの方に観ただけで嬉しかったです」と喜びをかみしめていました。

桜井先生からは「名電の高校生にも大きな刺激になったと思います。これからも愛工大チームAIの活躍を楽しみにしています」と激励の言葉をいただきました。



学生インタビュー!

愛知工業大学名電高校 情報科学科3年 秋田 千尋 さん

映像制作に携わりました。愛工大の皆さんからはソフトの使い方はもちろん、感動を与える作品に仕上げるための心構えなど多くのことを教えていただき、とても勉強になりました。制作を通じてとても良い先輩・後輩関係を築けたと感じています。卒業後は愛工大で引き続き先輩たちと作品を作っていきたいと考えています。



学生インタビュー!

愛知工業大学 情報科学部 情報科学科 メディア情報専攻1年 森本 朱偉 さん

「もう一度観たい」と感動してもらえる映像作りを目指しました。公演終了後にお客様の満足した笑顔を見た時には、今までにない達成感を味わうことができました。大成功できたのはメンバーたちの努力のおかげ。感謝の気持ちでいっぱいです。TeamAIの活動を通じて培った仲間との信頼は、一生ものだと感じています。



愛知工業大学

情報家電に関する国際会議「GCCE 2019」で Excellent Paper Award



情報科学科
水野 慎士 教授

「Interaction with CG Image Through Real Shadows of Objects Considering Their Color and Motion for Creating Ikebana Contents」と題した発表で受賞

愛知工業大学

「からくり改善工夫展2019」で努力賞



ロボット研究ミュージアムの
「からくりプロジェクト」

株式会社デンソーデザインと産学連携で取り組んだ「ロコモーションクリーナー」で受賞

愛知工業大学

日本機械学会東海支部フェロー賞



大学院
博士前期課程2年
ナノテク研究室
別府 幸さん

「SEM内引張試験技術を用いたカーボンナチューブの強度計測」と題した講演で受賞

愛知工業大学

秋季ばね及び復元力応用講演会で最優秀ポスター発表賞




大学院
博士前期課程2年
機能材料研究室
奥村 雅斗さん

「超音波ショットピーニングを施したTiNi形状記憶合金の腐食疲労特性改善」と題したポスター発表で受賞

愛知工業大学

最先端表現技術利用推進協会(表技協)の「羽倉賞」を受賞



情報科学科の
CGメディア研究室
(水野慎士教授)

NTTドコモ、ソニーと共同で制作したインタラクティブプロジェクションマッピングで受賞

愛知工業大学

国際学会「IWIN2019」で3つの受賞



大学院
博士前期課程1年
芳賀 正憲さん
(組込みシステム研究室)ら6人

「FA機器のサーボモータ間相互作用を考慮した故障予測」でBest Paper Award

大学院
博士後期課程2年、三菱電機
筒井 和彦さん
(組込みシステム研究室)ら3人

「CNC(コンピュータ数値制御)機器におけるスピンドルの連続的な位置制御」でBest Industrial Paper Award

大学院
博士前期課程2年
ユビキタス情報処理研究室
宮脇 雄也さん

「こだわり行動からの切替促進システムの実装と評価」でStudent Award

愛知工業大学

第1回オークハウス大賞



建築学科4年
住・商空間デザイン研究室
伊藤 謙さん

「Student Social Sphere」で大賞

愛知工業大学

未来の風景をつくるコンペ「令和に向けた街の豊かさを企画せよ!!」



建築学科4年
服部 秀生さん、
大竹 浩夢さん、
栗原 峻さん
(住・商空間デザイン研究室)

加古 百華さん
(建築設計研究室)

「マチガハウス ～工業化住宅街の脱却と未来風景の創造～」で優秀賞

愛知工業大学

木の家設計グランプリ



建築学科4年
住・商空間デザイン研究室
皆戸中 秀典さん

「ツクリ/ツムグ イー 郊外地域における小さな地域社会圏の提案一」で優秀賞

愛知工業大学

国際シンポジウム「2019 iSNST」でExcellent Poster Award




大学院博士前期課程2年
電気電子材料研究室
青山 悟さん

「Investigation of Electrical Conduction of mCP and mCBP Thin Films Used to TADF OLEDs (TADF有機EL素子に利用されるmCP、mCBP薄膜の電気伝導の研究)」と題したポスター発表で受賞

愛知工業大学

2019年演算増幅器コンテスト



大学院博士前期課程2年
光子デバイス研究室
伊藤 裕也さん

シミュレーションの部の部門2で1位、部門1で4位、部門3で6位

電気学科4年
光子デバイス研究室
白比 彪斗さん

LSI試作の部で3位、シミュレーションの部の部門3で7位

愛知工業大学

防災のための情報通信技術に関する国際会議で最優秀論文賞




情報科学科
河辺 義信 教授

共同研究者と発表した論文「DiReCT: Disaster Response Coordination with Trusted Volunteers (DiReCT:信頼できるボランティアとの災害時協調方式)」で受賞

愛知工業大学

映像情報メディア学会の優秀研究発表賞



大学院博士前期課程2年
ビジュアル情報処理研究室
清水 峻太さん

「浮流型ネットワークカメラによる下水管スクリーニング検査～撮影機体の設計とひび割れ検出手法の提案～」で受賞

愛知工業大学情報電子専門学校

第63回 愛知県統計グラフコンクール

情報工学科DTP・Webデザインコース1年
近藤 玲汰さん、夏井 友里花さん

パソコン統計グラフの部 金賞(知事賞)

近藤 玲汰さん、夏井 友里花さん

情報工学科DTP・Webデザインコース1年
福岡 拓郎さん、山田 亮太さん

パソコン統計グラフの部 銅賞(統計協会長賞)

福岡 拓郎さん、山田 亮太さん

愛知工業大学情報電子専門学校

第67回 統計グラフ全国コンクール

佳作
情報工学科DTP・Webデザインコース1年
近藤 玲汰さん、
夏井 友里花さん

愛知工業大学情報電子専門学校

第57回 豊田市民美術展

情報工学科DTP・Webデザインコース2年
松下 雅人さん
「こった漁店街ふゆこそ」
グラフィックデザインの部
豊田市教育委員会賞

情報工学科DTP・Webデザインコース2年
白石 ひかるさん
「のんほいパーク」
グラフィックデザインの部
豊田市議会賞

情報工学科DTP・Webデザインコース2年
上野 延典さん
「弥富金魚一校錦」
グラフィックデザインの部
優秀賞

愛知工業大学	愛知工業大学名電高等学校	愛知工業大学名電中学校	愛知工業大学情報電子専門学校
 <p>豊田市八草、名古屋自由ヶ丘にキャンパスをもち、3学部7学科14専攻と大学院2研究科を有する工科系総合大学です。「自由・愛・正義」の建学精神の下、1959年に開学して以来、学生のチャレンジ精神を全面的にバックアップし、ものづくり産業の第一線で活躍できる人材を育成しています。</p> <p>ホームページは こちら▶</p> 	 <p>愛知工業大学を軸に国立や難関私立大学を目指す普通科(特進・選抜コース、普通コース、スポーツコース)と、愛知工業大学各専攻と連携した教育を行う科学技術科・情報科学科があり、自分に合った学科・コースで学習します。最先端の学びにふれる授業に加え、ハイレベルな部活動も人間形成の一助になっています。</p> <p>ホームページは こちら▶</p> 	 <p>主要科目の時間をたっぷり取り、私立校ならではのバラエティ豊かな副教材を併用して、6年間をフルに使ったカリキュラムで学力を養成する「男女共学中高一貫校」です。学内にとどまらず、中高大の学園ネットワークを活かし、教科書の範囲を超えた授業で自然科学に対する興味関心を高めます。</p> <p>ホームページは こちら▶</p> 	 <p>豊田市や地元企業からの要請に応え、優秀なコンピュータ・エンジニアを育成するために1992年に誕生しました。学生に資格と技術者としての実力、誇りを獲得してもらうため、専任の教授陣に加え、産業界のエキスパートを講師に迎えています。単位制を導入し、大学への編入学にも対応しています。</p> <p>ホームページは こちら▶</p> 

Information

愛知工業大学	名電高等学校	名電中学校	情報電子専門学校
<p>3月23日(月) 卒業証書・学位授与式</p> <p>時間/10:00~(開場9:00頃) 式場/八草キャンパス鉦徳館(兼体育館)</p> <hr/> <p>4月4日(土) 入学式</p> <p>時間/10:00~(開場9:00頃) 式場/八草キャンパス鉦徳館(兼体育館)</p> <p>◎学生駐車場を開放します ◎ご家族の方もぜひお越しください。</p> 	<p>3月2日(月) 卒業証書授与式</p> <p>時間/10:00~ 式場/喬徳館</p> <hr/> <p>4月6日(月) 入学式</p> <p>時間/9:00~ 式場/喬徳館</p> <p>◎上履き不要 ◎ご家族の方もぜひお越しください。</p> 	<p>3月17日(火) 卒業証書授与式</p> <p>時間/10:00~ 式場/淳和記念館</p> <hr/> <p>4月6日(月) 入学式</p> <p>時間/10:30~ 式場/淳和記念館</p> <p>◎上履き不要 ◎ご家族の方もぜひお越しください。</p> 	<p>3月7日(土)、14日(土) 体験入学 要申込</p> <p>時間/9:30~13:30(受付9:00~9:30) 申込方法/ホームページ ◎片道交通費の補助制度があります ※詳細は事務部までお問い合わせください(Tel0565-32-8181)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実際の授業を再現した体験授業 ●個別相談会 ●ランチ無料  <hr/> <p>3月18日(水) 卒業証書授与式</p> <p>時間/10:00~</p> <hr/> <p>4月8日(水) 入学式</p> <p>時間/10:00~</p>

※時間等、変更となる場合があります。

Schedule 2020年3月~5月

	愛知工業大学	名電高等学校	名電中学校	情報電子専門学校
3月	2日 愛名会企業展(~4日) 5日 【入試】後期日程M方式 6日 【入試】名電関係入試 23日 卒業証書・学位授与式	2日 卒業証書授与式 3日 学年末考査(~7日) 19日 終業式	3日 学年末考査(~6日中学)(~7日高校) 17日 卒業証書授与式 19日 終業式	7日 体験入学 8日 【入試】4次一般 14日 体験入学 18日 卒業証書授与式 23日 【入試】5次一般
4月	入学式	入学式 健康診断	入学式 3年修学旅行 遠足	入学式 オリエンテーション、健康診断 編入説明会
5月		中間考査 芸術鑑賞会	授業参観 中間考査	

※スケジュールは変更となる場合があります。